

指導者(実習生) 〇〇〇 △△

指導教員 □□ ◇◇◇ 先生

1. 日時 令和〇年〇月〇日〇曜日第〇校時 (xx:xx から xx:xx)
2. 学年・組 第〇学年□・△組 (□組: xx名, △組: xx名)
3. 場所 グラウンド西側半面
4. 単元名 球技 (ベースボール型・ティーボール系)
5. 単元の目標 以下の事項を身に付けることができるよう指導する。

<知識及び技能>

- ・ベースボール型球技の特性や成り立ち, 技術の名称や行い方, その運動に関連して高まる体力などを理解することができる。
- ・基本的なバット操作と走塁での攻撃, ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。

<思考力, 判断力, 表現力等>

- ・攻防などの自己の課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

<学びに向かう力, 人間性等>

- ・ベースボール型球技に積極的に取り組むとともに, フェアなプレイを守ろうとすること, 作戦などについての話し合いに参加しようとする, 一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする, 仲間の学習を援助しようとするなどや, 健康・安全に気を配ることができる。

6. 単元について

①教材観

ベースボール型球技は, 身体やバットの操作と走塁での攻撃, ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し, 一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。ベースボール型球技の学習においては, ベースボール型の種目に共通する動きを身に付けることが重視されている。

特に, 第1学年及び第2学年では攻撃を重視し, 易しい投球を打ち返したり, 定位置で守ったりする攻防を展開できるようにすることが目指されている。

②生徒観

〇〇中学校では, □□の取り組みを行っていることもあり, 生徒は比較的△△△である。特に, 〇学年の□・△組については, ●名が※※※ということもあって, ◇◇◇◇◇という雰囲気がある。また, ◎◎◎については, ###など配慮する必要がある。

- ・〇年次には…, 〇学期には…,
- ・ICTの習熟や活用状況等
- ・チーム編成にあたっては, 等を記載

③指導観

指導に際しては, 易しい投球を打ち返したり, 定位置で守ったりする攻防を中心とした学習課題を追究しやすいようにプレイヤーの人数, グラウンドの広さ, 用具, プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れ, バット操作やボール操作とボールを持たないときの動きに着目させ, 学習に取り

組ませることを重視したい。

具体的には、ピッチャーが投げたボールを打ち返すのではなく、ティー台（本単元では 40cm コーンの上にコーンライトカバーとフレキシブルパイプを取り付けたもの）に置いたボールを打ち返す「ティーボール」を中心にゲームを進めていく。次年度、第 3 学年においては、連打を重ねての出塁・進塁・得点という連携した攻撃につなげていくため、本単元では「進塁とアシスト」というベースボール型球技の見方・考え方を取り入れて、単元を構成する。

7. 評価の視点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識 ベースボール型球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解している。</p> <p>○技能 基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。</p>	<p>攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>ベースボール型球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ったりしている。</p>

8. 単元・指導計画（全 10 時間）

時間	1	2	3	4	5・6	⑦	8	9・10	
学 習 過 程	<p>オリエンテーション</p> <p>○単元のねらい説明</p> <p>○学習の進め方説明</p> <p>○用具の扱い方確認</p> <p>・グローブ（左右）</p> <p>・ボールの握りと投げ</p> <p>・バットの握り</p> <p>・バットスイング</p> <p>・ティー台の扱い</p> <p>○学習の場確認</p> <p>・ベースの位置</p> <p>・バットの置き場所</p> <p>・ボールの収納</p> <p>○バッティング練習</p> <p>・ティーの高さ</p> <p>・役割分担</p>	<p>○あいさつ・点呼・W-up</p> <p>・本時の学習のながれを確認</p> <p>・ストレッチ→準備運動→補強運動</p> <p>・キャッチボール（ゴロキャッチ，下手投げ，1 分間連続）</p>				<p>○技能テスト （バットイングと定位置での守備）</p>	<p>○ゲームの記録シートの書き方説明と確認</p>	<p>○満塁ゲーム</p>	<p>○総あたりゲーム （記録シートを活用して振り返りながら）</p>
		<p>○ティー台を使った打撃練習</p> <p>○守備練習</p> <p>○フリーバッティング（3 チームずつ 2 箇所でのローテーション方式）</p>	<p>○進塁ゲーム説明</p> <p>○ランナー進塁ゲーム</p>	<p>○満塁ゲーム説明</p> <p>○満塁ゲーム</p>	<p>○満塁ゲーム</p>				
		<p>○学習の振り返りとまとめ・W/C-down</p>						<p>○単元の振り返り</p>	

9. 本時の学習（7/10 時間目）

①本時の目標：以下の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ・満塁の状況下で、打球の状況によって進塁したり帰塁することができる<知識及び技能>
- ・満塁の状況下でより多くの得点を取るための作戦を考えたり、自己の考えを伝えることができる<思考力、判断力、表現力等>
- ・満塁ゲームに積極的に取り組み、チームの作戦の話し合いに参加しようとするすることができる<学びに向かう力、人間性等>

②本時の展開

時間	学習活動・指導内容	○指導上の留意点・■評価/方法	◇準備物等
導入 8分	1. あいさつ・点呼をする 2. W-up（ストレッチ→準備運動→補強運動）を行う 3. キャッチボール（ゴロキャッチ、下手投げ、1分間連続）を行う	○参加人数、怪我や体調を確認する ○キャッチの際のグローブの向きや開き方を、引き続き指導する ○ボールを押し出すように投げる生徒には、手首を使い地面にワンバウンドさせる投げ方をさせる ○連続キャッチボールの時には、キャッチをした後のすばやいスローイングを意識させる	◇グローブ(1名1つ計30個) ◇ボール(2・3名で1つ計15個) ◇1分計時用大型タイマー(要電源)
展開1 10分	4. 本時の学習のながれを確認する 5. ゲーム記録シートの解説動画(6分30秒)を視聴し、記入方法を確認する ・グループごとにiPadを受領し、日陰エリアにて視聴する ・視聴終了後に、質問事項の共有を行う	○グローブとボールはチームごとの所定位置に戻すよう指示する ○ゲームを記録する意義を強調し、振り返りに活用することを説明する ○初回の視聴なので、各グループに巡視を行い質問等に対応する。質問事項は、次時以降の授業で活用するためのメモを残す	◇iPad w/解説動画DL済み(グループで1台計6台) ◇記録シート w/バインダー w/筆記具(グループで1セット計6セット)
展開2 12分	6. 満塁ゲームの行い方の確認と、打順や作戦についての話し合いを行う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 打球の状況によって、進塁するか帰塁するかを判断しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Aコートに1塁側に、コート方向に向いて集合する ・打球の状況に基づいて、ランナーの進塁帰塁の状況判断を考える ・満塁状況下で、バッターが打つ打球や方向を考える ・コート分けとローテーションを確認する <ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに打順や作成の話し合いを行う 	○前時までのゲームとは異なり、満塁状況下からゲームが始まることを説明する ○Aコートにチーム「あ(攻撃)」「い(守備)」「う(記録)」を配置し、シミュレーションを行いながら説明する ○満塁状況下で塁が詰まっているため、原則として打ったら進塁することを説明する ○フライの場合、捕球されるか着地するかを判断して、帰塁→タッチアップ(本単元では禁止)か、ハーフウェイかを判断させるようにする ○攻守とも、フォースアウト(ランナーへのタッチは不要)プレイとなることに留意するよう説明する ○二塁三塁は走り抜けできないことを再確認する ■作戦などの話し合いに参加しようとしている(主体的に学習に取り組む態度/巡視と観察)	◇ベース(ダイヤモンド×2コート) ◇ティー台(コートに1台合計2台) ◇バット(コートに軽重1本ずつ計4本) ◇ヘルメット(コートに4つ計8つ) ◇ボール(コートに2つ計4つ) ◇グローブ(守備のチームのみ使用)

<p>展開3 15分</p>	<p>7. 満塁ゲームを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aコート→あ・い・うチーム ・Bコート→か・き・くチーム ・打者が一巡したらローテーションする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールを転がしたままにしない, 打った後のバットを所定位置に置いてから一塁へ走るなど, 場の安全に十分配慮するよう指示する ○攻撃→守備→記録の順序でのローテーションを確認する ○守備の技能に不安定な部分があるため, 適宜エラー等への対応を指示する ○ゲーム記録シートへの記録状況を確認し, 質問等に対応する ■打球の状況によって, 進塁したり帰塁したりしている (知識・技能/巡視と観察) 	<p>展開2と同じ</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>8. チームごとにゲームの振り返りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム記録シートの読み方を確認し共有する ・打者が進塁のアシストをしているか確認する ・打撃方向や進塁帰塁等について考えたことをチーム内で発表・共有する <p>9. 次の学習内容を確認し, あいさつ・点呼する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての用具を所定位置に戻してから集合するよう指示する ○すべてのグループを巡視し記録シートの読み方や集計方法について, 確認と助言を行う ■ランナーを進塁させることについての課題や工夫等を考え, 他者に伝えている (思考・判断・表現/巡視と観察) ○参加人数, 怪我の状況など, 授業開始時と照合する 	<p>◇記入済みの記録シート</p>

③準備物

グローブ(1名1つ計30個), ボール(2-3名で1つ計15個), 1分計時用大型タイマー(要電源), iPad w/ 解説動画 DL 済み (グループで1台計6台), 記録シート w/バインダー w/筆記具(グループで1セット計6セット), ベース(ダイヤモンド×2コート), ティー台(コートに1台合計2台), バット(コートに軽重1本ずつ計4本), ヘルメット(コートに4つ計8つ)

④場の設定

